

中国の農業

夏真っ盛り。地平線の彼方まで青い野菜畑が広がる。トウモロコシ、落花生、ゴボウなどが元気に育っていた。肥沃な土地は何を植えても成長させる力があるのであろう。日本の棚田は美しい光景を思い出す。猫の額ほどの限られた土地を大切に農業を営む尊さ。それに比べてここは13億の人間を抱える中国。その規模の大きさにシャッポを脱いだ。

日本の食生活にとっては今や中国野菜の輸入がなければたちまち困窮してしまう。自給自足が出来なくなってしまった日本の食糧事情は大問題である。とは言っても今日も明日も生活し食べていかななくてはならない。中国の食品、食材はなくてはならない存在になってしまっているのも事実だ。



日本は国内産野菜出荷量の40%を海外からの輸入に頼っている。その半分が中国からである。一方、中国から見て生鮮野菜を最も多く食べてもらっているのは日本であり大切な輸出国なのだ。

若い時は野菜を殆ど口にすることはなかった。主にスタミナ食品を好んで食べた。しかし不思議なことに年を追うごとに食生活も変化。野菜中心となってきたのだ。朝食に生野菜を食べない日はない。毎食事も必ずたっぷりと食べている。ゆえに輸入食品の安全性には慎重であって頂きたい。島国という地理的条件に恵まれた日本。厚生労働省の食品衛生検査が港や空港で目を光らせているが、更に日本人の健康のために頑張ってもらいたいものだ。 撮影 2010年夏



